

# 高校日本史における社会的事象の論理を説明する力を 伸ばす授業づくり

— 多面的・多角的な視点から —

学籍番号 189967

氏名 岡尾 将志

主指導教員 田中 満公子

## 1. 背景と目的

昨今、科学技術の発達著しい。第4次産業革命によって Society5.0 と呼ばれる社会形態が始まろうとしている。また科学技術の発達だけではなく、グローバリゼーションの発達や社会主義経済の崩壊など社会は変質し、移民問題や少子高齢化など抱える課題は多岐にわたる。誰も経験したことがない世界がこれから始まるにあたり、子どもたちに必要な力も変化してくる。文部科学省が出した高等学校学習指導要領の改定のポイントには、「何ができるようになるか」を明確化することが重要であると指摘されている。

そこで「何ができるようになるか」の観点から、「自分の考えを論理的に組み立て、それを書くことができる技能」と「多面的・多角的な視点から考察する力」を目的として設定した。

## 2. 実践概要

基本学校実習Ⅰでは観察実習を行い、生徒と学校の実態を把握した。基本学校実習Ⅱでは解釈型歴史学習の理論を用い授業実践を行った。発展課題実習Ⅰでは生徒が自分の力で意見を記述できるよう援助用ワークシート（マトリックスシート）の効果を検証した。発展課題実習Ⅱでは生徒の記述する問いと場面を工夫（ロールレタリング）した。

## 3. 成果と課題

基本学校実習Ⅰでは議論や対話をさせる前に、①話す根拠となる文献を読ませる ②自分の意見をまとめる ③生徒間で意見交流する ④全体発表、教師や他の生徒が気になる点を質問する活動の必要性について、観察をした結果右図のような授業デザイン案を考えた。

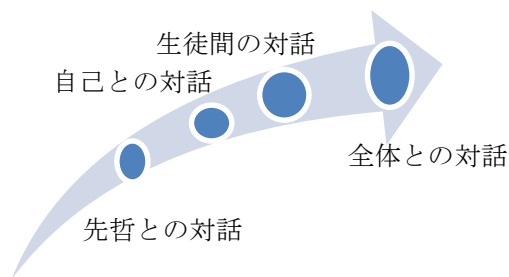


図 対話の段階

基本学校実習Ⅱでは解釈型歴史学習の理論を用い、生徒に多様な解釈に触れあうことができるように、グループワーク授業を行った。その結果、生徒は話し合う以前に自分の意見に理由や根拠がなく、話し合いに入る前の段階であることに気が付いた。

そこで発展課題実習Ⅰでは、生徒が自分の力で意見に理由か根拠をふまえて記述できるように思考ツールのマトリックスシートを活用した。以下は例として活用したワークシートである。

立場 面	尊王攘夷派	佐幕派	外国人
政治			
経済			
文化			

図 マトリックス・メソッドを活用したワークシート

上図のように様々な側面や立場を用意し、生徒に資料から情報収集させ、このシートに書かせ整理させた。結果、一定の有効性はみられたが、記入する時間がかかるなどタイムマネジメントが必要であると考えた。また生徒はそもそも理由と根拠が何かわかっていないということが判明した。

発展課題実習Ⅱではロールレタリングの技法を用い、過去の偉人になりきり説得力のある手紙を書くように指示を出した。また過去の実習の経験から筆者は下図のように授業デザインプランを作成した。知識習得、そして活用段階を2つに分け実際に使ってみる段階、使える状態で情報を整理させる。そして表現させることで生徒は意見を記述できるのではないかと仮説を立てた。

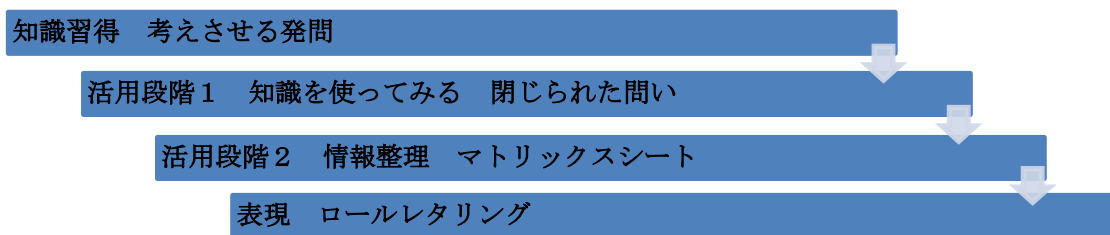


図 発展課題実習Ⅱにおける授業デザインプラン

## 4. まとめ

筆者のコンセプトは「生徒が自分の力でできる」であった。民主国家を支える市民になって欲しい。自立して自己実現できる力を育てたい。そのために多面的・多角的な視野を育て、自分の意見を論理的に組み立てることができる力を伸ばしたい。方法として、系統的に書き方指導や自由記述問題を毎回解かせるなど書くことに慣れさせる必要がある。そして段階を踏んで、知識を習得する、知識を使ってみる、そこから生徒は考えることができると結論付けた。考えることができるようになっても援助用ワークシートを配布し、生徒のパフォーマンス課題を書きやすいように工夫するなど、生徒を観察し生徒の実態に合わせて、生徒に寄り添う姿勢があれば、筆者の実践的研究の成果は汎用的に活用できると考える。